



発行者 祐愛会織田病院企画室  
責任者 織田 正道

# ゆうあい報

# おだぴたる

《院内報》

新年号



## 二〇〇九年法人方針

### 総合ヘルスケアシステムの構築

特定医療法人祐愛会理事長 織田正道

新たな夢と希望を抱いて、二〇〇九年がスタートしました。

当院が鹿島本町より現在地に移転してきたのが一九〇九年ですから、今年で百年目を迎えます。この百年という時の流れの中で、地域医療を取り巻く環境は決して平坦ではなく、明治、大正、昭和、平成と、それぞれの時代の困難に打ち勝ちながら、この地域の医療を守ってきました。そして今また、多くのマスコミが「医療崩壊」との見出しで連日報道していますように、医療は激動の時代にあります。

しかし、このような時代にあっても、当法人は皆さんの痛み無き努力のおかげで健全な運営を行っており、昨年の病院機能評価更新では中項目評点五が一二個、評点四以上が評価項目の九割に上りました。また、世界三大格付け会社の一つであるフィッチレーテングスより二年連続、BBB格でアウトLOOKは安定的との国際格付けを付与されました。これは、当法人の財務内容が高く評価されただけでなく、超高齢社会が現実のものとなった地域の需要に対応した保健(予防)・医療・福祉(介護)分野への総合的な取り組みが高く評価されたものです。

国の方針も「治す医療」から、「支える医療」への大きな転換期を迎えています。百年のこの節目の年に、これまでの歩みを振り返り、更なる飛躍に向けてのスタートにしたいと思えます。

今年の法人の方針は、時代のニーズに沿った「総合ヘルスケアシステムの構築」がキーワードです。各分野のシームレスな連携に向けて、情報一元化・共有化を一気に進め、全国モデルとなるような理想の地域医療実現のため、全スタッフが「一丸となつて勇往邁進していきたく考えます」。

さらにすべての分野において、各部門間の壁を取り払い、質の高い、効率的な組織運営を目指し、業務内容の抜本的見直し

を進めます。今までの業務のあり方にとらわれない新たな視点や発想で、業務の革新を進めていきます。

また、医療も介護も、そこで働く人で成り立っており、サービスの向上には人材の確保と定着、さらには各職種のキャリアアップを図らなくてはなりません。短時間労働正職員制度に代表される多様な勤務形態の導入などワーク・ライフ・バランスを推進していきます。

それでは、二〇〇九年における法人方針並びに各分野の目標を示します。

### 二〇〇九年法人方針

「保健・予防・医療・介護・福祉分野がシームレスにつながる総合ヘルスケアシステムの構築を目指します！」

#### 保健・予防分野

「生活習慣病の予防・改善に継続的に取り組み、地域の人々の健康を守ります」

- ① 人間ドック、二次検診、特定健診・特定保健指導に積極的に取り組み、ブラ下化を図ります
- ② ヘルスアップ事業にも力を入れ、ウォーキング教室、栄養教室の継続を図ります
- ③ 保健指導の担い手であるスタッフの人材育成に努めます

#### 医療分野

「地域に求められる(一般)急性期病院として、更なる医療の質の向上と効率化を進めます」

① 急性期病院としてさらに飛躍するために、抜本的な組織革新を行います  
・ スクラップ&ビルドの断行  
・ 各診療科、各部門を効率的組織横断的システム(大胆に見直し)  
・ 各種業務、人員配置の抜本的見直し(成果、付加価値の無い業務は廃止)  
・ 会議、各委員会の見直し  
(即解決、効率化を図る)

② 救急医療の充実と医療連携の強化に努めます  
・ 三六五日紹介、救急患者受入れ体制強化  
・ 積極的な情報発信、地域におけるポジショニングを確立  
③ セブティーマネジメントの更なる向上に努めます  
④ 百周年記念事業を執り行います  
・ 記念誌発行  
・ 記念講演会、祝賀会開催

#### 介護・福祉分野

「脱施設化に向けて、地域密着サービスの充実を図ると共に、ケア理念の浸透によるサービスの向上に努めます」  
① 個別性を重視した通所サービスの充実に努めるとともに、介護予防の更なる推進に努めます  
② 介護スタッフの能力向上に向けて、「認知症ケア」の教育研修に力を注ぎます  
③ 施設内感染予防や転倒転落防止を中心としたセイフティーマネジメントの更なる向上に努めます

#### すべての分野共通目標

① 全分野のシームレスな連携  
(総合ヘルスケアシステム構築)を推進します  
・ 介護保険サービス、訪問看護ステーションのサテライトを院内に開設  
・ 医療と介護(基本)情報を電子化し、一元化と共有化を推進  
② 働きやすい職場づくりに努めます  
・ 誕生日休暇(前後三日間) 制度導入  
・ ワークライフバランスの推進  
短時間労働正職員制度適応拡大  
多様な勤務形態の試み

### ゆうあいヴィレッジの取り組みと今後の展望

ケアコートゆうあい施設長 千々岩親幸

昨年は祐愛会スタッフ皆様の御協力のお陰で無事ケアコートゆうあい設立一〇周年記念行事を行うことができました。

ケアコートゆうあいは今年一二年目を迎えます。昨年は認知症対応デイサービスをさらに一ヶ所谷所にオープンし、認知症対応デイサービスは四ヶ所となり利用者も徐々に増加しており、現在日中のゆうあいヴィレッジの利用者数はサテライトや入所も含めると毎日二〇〇名を超える方に御利用いただいている状況です。このような状況の中で入所、通所ともに利用者の介護度、医療依存度の重度化、認知症の増加という傾向は続いており、この傾向は今後も変化はないものと考えられ、病院との連携がさらに重要なものとなっていくと思われます。より重度の方の入所ということに関して言えば老健での看取りが多くなり昨年は月平均一名の看取りを行いましたし、終末期を老健で過ごされる方が常に一〜二名おられるようになりました。

設立当初、介護保険三施設(老健、特養、介護療養型病院)はそれぞれ機能的な区別があり、老健での看取り機能はあまり考えておられなかったようなのですが、現在は特別養護老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、老人保健施設などの入所施設すべてで看取りが行われるようになってきており、学会などでも看取りの介護が大きなテーマとして取り上げられるようになりました。ゆうあいヴィレッジには老健とグループホームの二ヶ所の入所施設がありそれぞれでの看取り対応について現在検討中です。

通所部門では、軽〜中度の認知症で在宅生活をされている方がこの地域でも潜在的に

かなりの数おられることが予想されるため認知症対応可能なデイサービスを四ヶ所(合計利用定員七〇名)に増やし、ケアマネージャーやゆうあいスタッフが認知症の進行予防や御家族の負担軽減のために利用していただくことをすすめているところです。今年には織田病院や地域の先生方との連絡をさらに密にし利用につなげていきたいと考えております。また、特定高齢者、要支援レベルの方の介護予防についてはその有効性が明らかになりつつあり、ゆうあいヴィレッジでもパワーマリハビリテーションなどの介護予防サービスの強化と介護サービスと介護予防サービス利用者の明確化を計画しています。

昨年末には次年度改定予定の介護報酬の概要が明らかになりました。三〇%の増額改定と言われておりますが、我々実際に介護に携わり、運営を行っているものにとっては依然厳しい状況にあることは変わりありません。来年度はこの改定内容を十分に分析し、皆で智慧を出し合って利用者の満足度アップとさらなる経営の安定をはかるように努力していくつもりです。

昨年来の経済危機で様々な産業が打撃を受け今年には不況が進行し多くの失業者が出ることを予測されております。しかし、日本の高齢化はこれから本番であり、二〇三五年がピークと言われています。そのため介護福祉分野は今後ますますの需要の増加が見込まれ、人材ももつと必要になります。祐愛会の介護福祉分野を担うゆうあいヴィレッジでは常に将来を見据えながら今後の高齢化社会への対応を計画している所です。皆様御協力よろしくお願いたします。

### ケアコートゆうあい開設一〇周年記念

### ハモンドケアグループ来日講演会開催

支援相談室主任 内田智弘

当法人では認知症ケア向上の取り組みとして、オーストラリアのハモンドケアグループと提携し交流をおこなっています。オーストラリアも日本と同様に高齢化と認知症の有病率の増加が大きな問題となっております。ハモンドケアの特徴は、明確なケアの理念を掲げ、その理念に基づいた認知症高齢者のための環境を整備し、独自に開発された評価スケール(PDS)で評価を行い、個別的なニーズに対応したケアプランの作成とその実施をおこなっていることです。



■ミーティング(当院)

この度ケアコートゆうあいが開設一〇周年を迎えた記念行事として、ハモンドケアグループよりジャッド理事長はじめ講師の方を日本にお招きし、高齢者ケア、

認知症ケアの実践について貴重な助言、指導を頂きました。また九月一七日には鹿島市生涯学習センター(エイブル)にて「高齢者介護サービス事業におけるリーダーシップと成長」―認知症介護の将来展望―と題した講演会を開催し、地域で高齢者介護に携わる多くの方にも出席を頂きました。

今後私たちが

国内外の優れた高齢者ケア、認知症ケアのノウハウを採り入れ、地域の皆様のお役に立てるサービス構築を目指していきます。



■講演会(エイブル)



■ジャッド理事長(左)

### 当院における新型インフルエンザ対策

感染防止委員会委員長  
澤津橋基広

出現は「時間の問題」といわれる新型インフルエンザは、毎年流行するインフルエンザとは全く違う強毒性ウイルスの感染症で、容易に感染し、致死率の高い病気です。

インフルエンザといえば、高熱、関節の痛み、呼吸器症状が典型的な症状ですが、今回パンデミック(大流行)が危惧されている新型インフルエンザは、体のあちこちに出血を引き起こし、あつと言う間に多臓器不全、DIC、敗血症と急激に重篤な状態になってしまうのです。

これまでの報告では、日本国内で、三二〇〇万人が感染し、六四万人、二〇〇万人が死亡するだろうと言われていました。私個人的には、これらの推計は、まだまだ楽観的な推計で、もっと死者が出る可能性があると思っています。極端な言い方をすれば、「罹患してしまつたら、死を覚悟しなければならぬ感染症」なのです。現時点で、想像することは、難しいかもしれませんが、二〇〇三年の重症急性呼吸器症候群(SARS)流行時よりも確実に、社会や経済が、混乱し、大きな被害を生じるでしょう。

WHOでは、新型インフルエンザ流行の指標として六つのPhaseフェーズに分けて警告しています。日本では、「国外でトリからヒトへ感染がみられ、国内ではトリからヒトへ感染した患者は発生していない」状態で、今現在Phase3Aの状態です。

「海外で新型インフルエンザのヒトからヒトへの感染が確認」されれば、Phase4となり、県単位で、発熱外来

が設置され、国をあげて、新型インフルエンザの流入防止、拡散防止を図ることになっています。しかし、現実的には、日帰りで、国と国を行き来ができるこのグローバル社会においては、水際での国内への流入防止は不可能です。新型インフルエンザは、ヒトヒト感染の海外発生確認から約二週間から四週間程度で、日本に上陸するだろうという推計が出ています。「日本でヒトからヒトへの感染が確認」されれば、Phase4となり、学校は休校。県は、外出を控えるよう勧告し、疑わしい患者は全て、県の指定病院で対応することになっています。

国内での感染が集団発生段階になればPhase5となり、指定病院だけでは対応不能になります。その時点で、外来患者対応は、武雄杵島地区医師会館とエイブル(保健センター)でも対応することになっています。入院が必要なお患者は、この時はまだ、公的病院で対応することになっていますが、公的病院もすぐに満床になることは容易に想像できません。当院では、①発熱外来チームの派遣、②入院患者の早期退院促進、③緊急性のない患者の入院自粛(救急体制)、④入院患者の死亡時の対応確認をとることになっています。

大流行(パンデミック)時にはPhase6となり、県主導による食料配給、治安維持の徹底、県は、死亡者の火葬場の確保などが検討されています。この時点で既に、医療者へのワクチンや、予防内服用タミフルは、底をついていて、我々には、回つけない可能性があります。当院では、救急体制となり、生き残った職員で対応する。入院の必要な患者は、当院でも入院治療する。病院は、死亡

患者の安置場所の確保をする等の対策を考えています。

一九九九年のメエ〇インフルエンザ、パンデミック計画以来、各国で、新型インフルエンザパンデミック対策が始まりました。二〇〇五年にWHOが、国・県・地域主導の新型インフルエンザパンデミック対策の必要性について勧告しましたが、国の対応の遅れから、各機関において新型インフルエンザパンデミック対策はまだ具体的に進んでいないのが現状です。

新しい機序で、インフルエンザの増殖を抑える新薬の開発など、期待できる話題もありますが、タミフル耐性のインフルエンザも出現しており、楽観できない状況です。国もようやく、楽観的観測から現実路線に方向を転換し、二〇〇五年に策定した行動計画を全面的に改訂することが、二〇〇九年一月八日付けの新聞でも報じられていました。インフルエンザから身を守るためには、個人レベルの理解、地域における相互協力が不可欠です。今のうちに理解を深め、準備をする必要があります。個人レベルの具体的な対策指針は、厚生労働省や、佐賀県のホームページに示されていますので、まだ読んでいない方は是非読んで下さい。

#### ◎参考文献

- ・H5N1強毒性新型インフルエンザウイルス日本 上陸のシナリオ(単行本)
- 岡田晴恵(著) 一六八〇円(税込)
- ・最強ウイルス「新型インフルエンザ」の恐怖(エッセイ) (単行本)
- ニコ「最強ウイルス」プロジェクト(著)
- 一〇五〇円(税込)

### 医局秘書紹介

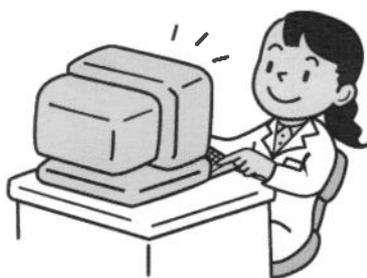
医局秘書 瀧野由香

二〇〇八年、厚生労働省は病院勤務医の事務負担の軽減を緊急課題とし、医師の事務作業を補助する職員の配置を評価の対象としました。

当院でも医師事務作業補助者(医局秘書)が導入され、循環器科に二名、医局に一名配置となっています。どのような業務かというと、主にはこれまで医師が行っていた診断書等文書作成や診療録・処方箋の記載、検査の予約等を、最終的に医師が確認することを条件に私たちが行います。これらの事務作業を円滑にサポートするためには一定の医療知識が必要なため、六ヶ月間の研修が義務付けられています。

『事務負担が軽くなる分、医師は患者さまと接する時間が長く持てるようになる』というのが導入の目的ですが、まだまだそこまで辿り着けていないというのが現状です。医師本来の診療業務に集中してもらいたいことは、

患者サービスの向上にもつながるものだと考えます。先生方にほんの少しでも負担感が減つたと実感してもらえらるよう、日々精進していきたいです。



### 全日病第32回ハワイ研修旅行

看護部  
江口美美子 小森純子

2008年10月30日から11月4日まで、織田理事長、洋子先生を含む法人職員12名でハワイへ旅立ちました。



- A:「あつという間の6日間だったね。出国時は日本を離れる切なさを感じていたけど、帰国時は逆に見慣れた風景を見て切なかったね。」
- B:「ホント楽しかったね。理事長と洋子先生は新婚旅行以来のハワイデートで、毎日ラブラブでパールックもかなりお似合い♥だったし、私達も食べて食べて体重は増え続け↑↑↑・・・、ハプニングも続出し思い出が盛り沢山!!」
- A:「ハワイと言えばフラダンス。レイを首からかけて初日から弾けたね。そのノリでバスを途中下車しアラモアナへショッピングに出かけたら・・・。その帰りの路線バスでホテル付近のバス停が分からず、身振り手振りの英語は無視され結局地図を見ながら歩いて帰ったね。」
- B:「ショッピングも円高ドル安だったから、皆買い捲ったし! 毎晩ショッピングへ出掛けハロウィンパレードの日は、小雨の中必死に帰ったね。怖かった・・・」
- A:「ハロウィンを満喫していたのは洋子先生だったね。愛する理事長へのサプライズプレゼントかも♥♥♥」

B:「そうそう、ショッピングの途中で有名人にも会ったね。残念ながら写真は撮れなかったけど握手が出来たから満足。」



A:「あとハワイと言えば海だよ。オアフ島巡りで行ったビーチも青く澄んでキレイかったけど、やっぱり水着を着て皆でビーチバレーをやったのは最高に楽しかった!! ビーチバレーしているのは私達だけで自分の年齢を忘れ遊んでいた・・・。浜辺を見ればアメリカ人の注目の的だったね。」

B:「他にも日立の木やダイヤモンド・ヘッドなど絶景を見ながら観光したね。あまりの楽しさに現実逃避し、ハワイで過ごす4日間があつという間に終わった気がする。」

A:「帰国する前夜はホテルのペランダで夜景を見ながら4日間を振り返り、語り合ったね。」

A・B「このような楽しい時間を過ごす事ができ、研修中お仕事をされていた職員の皆様へ感謝しています。そして理事長・洋子先生、ともに旅した8名の皆さんへこの場を借りてお礼を申し上げます。みなさん、ハワイ行きの声が掛かったら、断らず行くべきです!! すごく楽しいですよ。」



①成人を迎えた感想は?  
無事に成人式を迎えられて嬉しく思っています。二〇〇年という月日は本当にあつという間でした。まだ大人の仲間入りをしたという実感はありません。これから少しずつ感じていくと思います。社会人として周りの人に迷惑をかけないよう責任ある行動をしていきたいと思えます。最後にここまで



〇ゆうあいヴィレッジ 原智美さん

②自己PR  
患者様一人ひとりに優しさを与え、笑顔で一生懸命頑張りますので、皆さんご指導よろしくお願ひします。

③成人を迎えた感想は?  
無事に成人式を迎えられて嬉しく思います。大人として自覚を持って行動し、社会人として恥ずかしくない大人になりたいです。  
今しかできないことをたくさん経験したいです。



〇織田病院 竹本愛さん

成人  
おめでとう

たときと異なり、外来の経験もさせていただけたこと、入院の診療に積極的に関わること許されたことは非常に勉強になりました。内科の先生方を始め他科の先生方にもご指導いただき、ありがとうございます。またスタッフの方々にもサポートしていただき、とても働きやすい環境でした。異なる職種間の連携がスムーズであり、各種委員会の活動も活発な織田病院は、大学病院での勤務経験しかない私の目には新鮮であり、魅力的に映りました。今後は神戸大学放射線科に入局する予定ですが、こちらで得たことを活かして関西でも頑張ります。



内科医師 末永裕子

## また逢う日まで

①育ててくれた両親に「ありがとう」の気持ち伝えたいです。  
②成人してやってみたいこと?  
これからもっと働いてお金を貯め、友達や先輩と旅行へ行きたいです。若い時にしか出来ないことをいっぱい楽しみたいですね。  
③自己PR  
ゆうあいに入職して四月で一年になります。今までたくさんの先輩方に色々教えていただいた事を自分のものにし、笑顔を忘れず一生懸命頑張りたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。

# 医療安全委員会便り

## 『ワーキンググループが医療安全委員会の実働・命』

リスクマネージャー 井手眞由美



『あけましておめでとございませう』  
二代目リスクマネージャーとなりまし  
た井手眞由美です。平成二〇年一〇月  
からこの任務に就いています。まだ数ヶ  
月、未熟者ですがどうぞよろしくお願  
いいたします。

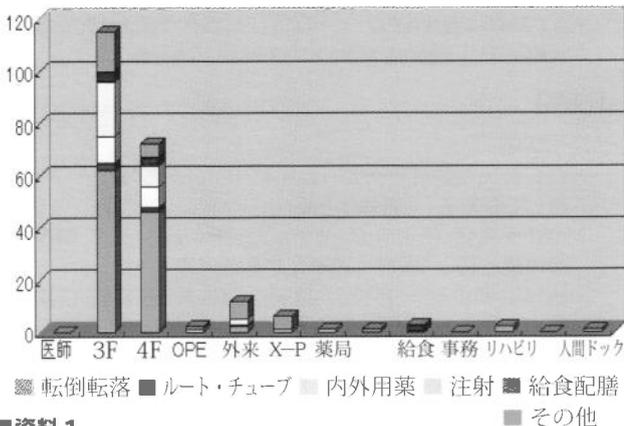
昨年までは病棟師長として看護部の  
安全対策に取り組んでいましたが、リス  
クマネージャーとして病院全体の安全文  
化を高めるための活動は、さらに組織  
横断的な活動や、周知徹底の難しさを  
日々感じています。

各部署の代表である医療安全委員が、  
『安全教育研修』『院内ラウンド』『転  
倒転落防止』『看護部技術チェック』『与  
薬フローチャート遵守』『注射フローチャ  
ート遵守』『インシデントアクシデント報  
告書の改訂』など、担当するグループ  
活動を自主的に責任を持って行なってい  
ます。月一回の委員会では時間が足り  
ず、適宜時間をとって活動をしています。  
この委員自ら活動する力を支えとして、  
さらに伸ばしていけるようにがんばって  
行きたいと考えています。

ところで、インシデントアクシデント報  
告書数は、部署毎で違いが見られます。  
(資料1) エラーが起る頻度も違おうと  
思うのですが、報告書に対する考え方  
にも違いがあるのではないかと思います。  
始末書や反省文とは違おうと考えていま  
す。そこで、安全文化を高める一環と  
して、インシデントが発生してまだ職員  
の記憶が新しい時期に部署で SHELL 分析

を行っていきます。個人の問題として解決  
してしまおうと、部署内で問題を共有しな  
いまま、おなじエラーがまた発生する  
という悪循環を起してしまうからです。  
インシデントアクシデント報告書は出  
すことではなく、問題を共有するための  
ものですから、始末書や反省文ではあ  
りません。現在部署ラウンドを行って  
いますが、さらに職員の意識を変えらる啓  
蒙活動をおこない安全文化が根付いてい  
くようにと考えています。今年もよろし  
くお願いいたします。

部署別報告書数(4月~12月)



資料1

## 四季雑感

名誉理事長 織田 五二七

人生の時計は一度しかねじをまかない。その針がいつ止まるか、おそく  
か、それとも早くか、誰も知らない。

今が、私達の時間だ、生きよ、愛せよ、そして心をつくして働け。明  
日があると油断してはいけない。なぜなら、そのとき人生の時計はとまっ  
ているかもしれない。

限りなく 降る雪なにを もたらすや

流水の ひしめき合える 月下かな

寒椿 紅の光は 風の中

三鬼  
杜秋  
浙吾

人の頭は、使えば使うほどよくなる。だから何事も経験、勉強。過去の  
過ちを思いわずらうことなく、「過去を生かし、今を生かし、何でも私  
にとつて必要なことだった。今気に入らないことも、きついことも、くやし  
いことも、好きな人も、きらいな人も、皆必要だ」と肯定すること。そ  
れで人生は楽しいし、生きがいがあり、いい一生だと思ふ。

灯火消して春を隣としてねむる  
雪も氷も霜も吹雪も、これは春の隣



## 学会(研究会)・講演(講義)・論文発表(平成20年)

## 【学会(研究会)発表】

## ◎医学関係

- 九州B型肝炎フォーラム(1月12日 ホテルニューオータニ博多)  
松延亜紀。「若年者B型慢性肝炎の2例—今後の治療方針について」
- 佐賀消化器外科アーベント(2月6日 マリトピア)  
浦田雅子。「腹壁瘻痕ヘルニアに対するComponent Separation Technique」
- 学習療法研究会大会(4月27日 大阪)  
鐘ヶ江寿美子、山崎律美、石橋カズヨ、川島隆太、小泉俊三。  
「認知症高齢者の学習療法評価尺度の開発」
- 第21回総合診療ケースカンファレンス(5月21日 マリトピア)  
朝長元輔。「内科医が知っておきたい産婦人科疾患  
～Fitz-Hugh-Curtis 症候群の一例」
- Hammond Care's 7th Biennial Dementia Conference 2008  
(6月17日 シドニー)  
鐘ヶ江寿美子、山崎律美、石橋カズヨ、川島隆太、小泉俊三。  
「Measuring the Effectiveness of learning Therapy」
- 第21回日本疼痛漢方研究会(7月25日 東京ココロホール)  
柿添亜矢。「柴胡剤が奏功した三叉神経痛の1例」
- 第9回日本認知症ケア学会(9月27日 高松)  
鐘ヶ江寿美子、山崎律美、石橋カズヨ、川島隆太、小泉俊三。  
「認知症高齢者用学習療法対象者のための日常生活スケールの開発」
- 第60回日本気管食道科学会(11月6日 熊本)  
清原英之、梅崎俊郎、澤津橋基広、織田正道、小宗静男、他。  
「嚥下内視鏡検査における嚥下性肺炎のリスク評価」
- 第22回総合診療ケースカンファレンス(11月19日 マリトピア)  
朝長元輔。「内科医が知っておきたい泌尿器疾患～膀胱癌の4例」
- 佐賀西部消化器勉強会(11月27日 武雄杵島医師会館)  
中野良、坂田泰志、松永圭司。  
「咽頭痛を主訴とした60歳発症のクローン病の1例」  
松永圭司、坂田泰志、中野良。  
「バレット食道から発生した食道腺癌の1例」
- 日本耳鼻咽喉科学会佐賀県地方部会(12月13日 マリトピア)  
澤津橋基広、清原英之、鷲崎政治、柿添亜矢、織田正道、  
小宗静男。「当院における短期滞在鼓室形成術の試み—中耳  
手術218例(232耳)の検討」

## ◎看護・介護・福祉・薬学・事務関係

- 第7回医療マネジメント学会佐賀地方会  
(2月9日 武雄市文化会館)  
河本健太郎。「注射エラー防止の取り組み～アンケート調査による現状分析～」  
山田のぞみ。「抗がん剤を取り扱う医療従事者のリスク軽減をめざして」  
野田知世。「針刺し事故後の職員の受診の実態」
- 平成20年度佐賀県放射線技術者学術大会  
(6月22日 鹿島市エイブル)  
宮崎公志。「診療連携ネットワークシステムを導入して」
- 第19回全国介護老人保健施設京都大会  
(8月27日～29日 京都府 国立京都国際会館)  
橋間祐也、太田安幸、安永勝子、鐘ヶ江寿美子  
「総合的機能評価による多職種連携と認知症ケア ～不安の  
声から喜びの声へ～」
- 日本認知症ケア学会(9月26日～28日 香川県高松市)  
野中繁昇、市丸徳美、安永勝子、鐘ヶ江寿美子  
「利用者のケアグループ選定方法 ～J-CPATを活用した  
ケアグループ選定基準の作成と活用～」  
北川英俊、永田万里子、貞松礼子、峯みちる  
「グループホームに総合的機能評価を導入し、心のケアが向上した  
一例 ～日本語版CPATを活用して～」

- 佐賀県介護老人保健施設職員研修会  
(10月29日 佐賀市文化会館)  
野中繁昇、市丸徳美、安永勝子、鐘ヶ江寿美子  
「J-CPAT活用によるケアグループの再編成」
- 第3回九州放射線医療技術学術大会  
(11月2日 宮崎県 宮崎市民プラザ)  
宮崎公志。「画像情報ネットワークシステムを導入して」
- 第50回全日本病院学会東京大会  
(11月22日～23日 東京都 都市センターホテル)  
田島まり子、久富久美子、江口利信、西村美枝子、西山雅則。  
「当院における退院支援の効果と問題点」  
谷口繁樹、吉村早苗、吉村かおり、佐藤晴子、江口富士子、  
西村美枝子、西山雅則。「与薬エラー防止の取り組み」  
牛島久美子。「糖尿病患者への支援～講義型から参加型へ～」  
土井弥生。「生活習慣病予備軍への効果的な行動変容について」
- 第1回医用画像情報管理フォーラム(12月13日 佐賀大学医学付属病院)  
宮崎公志。「画像情報ネットワークシステムを導入して」

## 【講演】

## ◎医学関係

- 白石町民生委員研修会(1月11日 ひだまり館)  
鐘ヶ江寿美子。「認知症とは」
- AIM研究会(2月5日 ホテルセンチュリーヒルズ 朝倉市)  
澤津橋基広。「内科に必要な耳鼻科疾患」
- 認知症サポーター研修会(2月16日 鹿島市商工会議所)  
鐘ヶ江寿美子。「認知症とは」
- 介護相談員研修会(2月18日 杵藤地区介護保険事務所)  
鐘ヶ江寿美子。「認知症の方への接し方」
- 第22回鹿島市みんなの集い(3月2日 鹿島市民会館)  
中島順子。「あなたのからだの中をのぞいてみたら」
- 佐賀県ソーシャルワーカー協会講演(3月8日 佐賀大学医学部)  
鐘ヶ江寿美子。「日豪高齢者ケア・認知症ケアの比較」
- がん予防県民公開セミナー(3月8日 鹿島市民会館)  
伊山明宏。「乳がんについて」
- 認定調査員現任者研修会(3月19日 伊万里市役所)  
鐘ヶ江寿美子。「認知症の中核症状・周辺症状の評価」
- 赤ちゃんのためのスキンケア勉強会(7月15日 鹿島市エイブル)  
織田洋子。「夏の皮膚トラブル対策！」
- 鳥栖地域リハ広域支援センター講演(9月13日 緑生館)  
鐘ヶ江寿美子。「介護予防事業:軽度認知障害・早期認知症の評価」
- 白石町地域包括支援センター講演(9月20日 白石公民館)  
鐘ヶ江寿美子。「認知症の早期対応」
- 嬉野漢方のつどい(10月2日 大正屋)  
柿添亜矢。「耳鼻咽喉科外来における漢方の使用経験」
- 鹿島機械工業KK健康講話(10月7日 鹿島機械講堂)  
西山雅則。「喫煙と禁煙外来について」
- 佐賀県老人福祉施設協議会講演  
(10月31日 佐賀市産業振興会館)  
鐘ヶ江寿美子。「認知症に関する基礎知識」
- 杵藤地区地域リハ広域支援センター介護予防実務者研修会  
(12月5日 白石共立病院)  
鐘ヶ江寿美子。「軽度認知障害、早期認知症、認知症予防  
の基礎知識」

## ◎看護・介護・福祉・薬学・事務関係

- 第10回 東海青年医会学会(2月17日 名古屋 名古屋国際会議場)  
田島まり子。「当院における退院支援の取り組み」
- NOSAI 杵島地区研修会。(6月26日 杵島地区農業共済組合)  
土井弥生。「職員の健診後の健康管理について」
- 第1回唐津心臓リハビリテーションフォーラム  
(8月1日 唐津りふれホール)  
田島まり子。「当院における退院支援の取り組み」

学会(研究会)・講演(講義)・論文発表(平成20年)

- ・第11回湯陶里会(8月29日織田病院)  
坂田善和、「モニターの精度管理について」
- ・杵藤地区介護支援専門員協議会研修  
(11月26日 白石町 福富ゆうあい館)  
田島まり子、「介護支援専門員と医療との連携」
- ・光風荘職員研修会(11月26日光風荘)  
土井弥生、「職員の健診後の健康管理について」
- ・白川病院研修会(12月4日 岐阜 白川病院)  
西村美枝子、田島まり子、「医療福祉連携システム運用と効果」

【講義】

◎医学関係

- ・神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部講義(1月24日)  
鐘ヶ江寿美子、「日豪高齢者ケア・認知症ケアの比較」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義  
織田洋子、「成人看護一皮膚科」(4月8・15・22日)
- ・佐賀県立看護学院保健学科講義  
西山雅則、「地域保険と高齢者保健指導Ⅰ」(6月10日)  
鐘ヶ江寿美子、「地域保険と高齢者保健指導Ⅱ」(7月9日)

- ・佐賀大学医学部医学科4年生(11月25日)  
「介護と在宅医療・地域医療連携」
- ◎看護・介護・福祉・薬学・事務関係
  - ・鹿島藤津地区医師会立看護高等専修学校講義(4月8・15日)  
江口利信、「日本の保健医療福祉のしくみと特徴」  
「今後の保健医療福祉」
  - ・佐賀県立産業技術学院福祉サービス科講義  
(7月4日・11日佐賀県立産業技術学院)  
江口利信、「老人・障害者福祉論(高齢者の障害者への保健・医療・福祉の総合的援助、相談・支援、事例)」

【論文・著書】

- ・鐘ヶ江寿美子、市丸徳美、千々岩親幸、Richard Flemming、小泉俊三：日本語版 Care Planning Assessment Tool の作成と信頼性・妥当性の検討。日本老年医学会, 2008.
- ・土井弥生：コメディカルスタッフの活躍を追う～病院における保健師の役割について。Life Style Medicine, 2(2), 191-194.
- ・田島まり子：病院から始める退院支援—退院支援定着への取り組み—。(株)日本看護協会出版会, ナーシング・トゥデイ, 2008年5月号.

第十三回ゆうあい研究発表会

看護部三階病棟主任 谷口繁樹

今回で十三回目を迎えるゆうあい研究発表会が昨年の十二月二十日(土)に開催されました。演題は十二題(うち志田病院様より二題)と多くの演題をいたたき、年を経る毎に充実した研究発表会になっています。

第I群は介護分野に関する演題、第II群は病棟に関する演題、第三群は患者サービスや業務改善における発表でした。第I群は、CPAT(総合的機能評価票)を活用した精神的ケアの充実、ケアマネージャーからのケアプラン自己点検票の改善についてなど、入居者の多様な心理的ニーズや認知症の精神症状へ個別に対応し、円滑な生活を送ることが課題となるテーマでした。

第II群では、プライマリナーズとしての看護計画立案に対するアンケート調査を行い意識の変化がみられた発表でした。昨年、六月より新たに病棟リエンジニアースが配置され病棟リエンジニアースからの演題もあり、入院時から早期に連携を図りスムーズな退院調整が必要であることを再度痛感しました。

第III群では、健診における便潜血検査の陽性率や膝関節領域の画像向上、大腸カメラの改定についての演題が発表されました。特に栄養科での見た目を変えたキザミ食では理事長の提案から始まり、利用者の反応は好評で日々改良に取り組みされていたことに感心させられました。

特別講演では、佐賀大学医学部放射線科の水口昌伸先生による「放射線科から見た医療安全について」でした。医療安全に関わる者としては興味深いお話をさせていただきました。患者の不満度が事を重大化するということを実感する事ができました。



■講演される水口先生

平成二〇年度スタッフが選ぶ「輝いていた人」決定!

医事課 久我佳子

前回までは、患者様の退院時アンケートにより選んでいましたが、(DEや病棟看護部に票が偏るということもあり)今回より全スタッフの投票により選ぶことになりました。

表彰テーマとして、「笑顔・挨拶」「頑張ったでしょう」の二項目で投票を行いました。(表彰者はリスト参照下さい)その他、「年間病院マスコット賞」、「年間優秀賞」、「特別賞」なども追加されましたので、紹介致します。

表彰テーマ	部署	氏名
笑顔・挨拶 表彰	看護部 外来	倉崎 アキヨ
	4階病棟	若永 美沙子
	4階病棟	一ノ瀬 明子
	薬剤部	米野 さつき
	放射線科	鶴田 友美
	総務課	重松 律子
	4階病棟	栗山 聡子
	4階病棟	川下 勝利
	4階病棟	山口 賢太
	4階病棟	遊 美奈子
頑張ったでしょう 表彰	看護部 外来	北川 珠子
	薬剤部	山田 ののみ
	栄養サービス	牛島 久美子
	医局検査	前田 好美
	支障相談室	鎌香 哲子
ゆうあいヴィレッジ	支障相談室	鎌香 哲子
	透析	島津 陽子
	事務	北川 珠子
	居宅	神代 結
	透析	光武 耕治
	支障相談室	内田 智弘
	療養棟	山口 太一
	機能訓練室	松尾 聡美
	総務	小池 俊香
	総務	小池 俊香

年間MVP賞	部署	受賞者代表
織田病院	機能評価委員会	伊山副院長
	受賞理由:機能評価Vis.5の更新に際し、受賞前1年間各部署を回り、動員・指導を行い、見守りケアさせた功績により受賞。	
年間優秀賞	部署	受賞者代表
織田病院	健康管理センター	土井課長
	受賞理由:特定検診・特定指導の受託業務と検診事業の業績アップにより受賞。	
特別賞	部署	受賞者代表
ゆうあいヴィレッジ	ゆうあい座	野中 昌子(代表)
	受賞理由:仕組に力を入れて、介護保険等の広報活動による受賞。	
クラブ活動	軟式野球チーム 総愛会	谷口 繁樹(代表)
	受賞理由:第48回佐賀新聞杯軟式野球大会 鹿島地区予選では勝って勝ち進み、ベストチームとなりましたが、総愛会の名を冠したものの結果は惜しい。	

### 平成二〇年年間改善賞発表

業務改善委員 久我佳子

忘年会にて表彰がりましたが、今回もすばらしいSAINENがたくさんありました。一部紹介いたします。(全表彰者はリスト参照下さい)

・「リラックス入浴」

入浴効果を高めるため、乾燥よもぎを袋につめ浴槽に入れた。高齢患者様に好評です。三階病棟看護師 栗山聡子さん

・「化学療法のスリッパを気持ちよく履いていただくため」

消毒済というカードをスリッパにはさめることで、患者様に気持ちよく履いていただく。外来看護師 小野銘子さん

・「リカバリーMini(栄養補助食)を食事から間食として提供へ」

食事と一緒に提供していたのを、一〇時と一五時に間食として提供するように変更した。病棟での食事量の把握が徹底でき、提供しなかった分は返却できるので、破棄する分がなくなった。(総額¥101,178/月の削減)

給食委員会 (代表 栄養士 牛島久美子さん)

・「患者様への意識付け」

入院患者様の支払いが後日になる場合、「債務弁済契約書」を記載してもらい、支払い期日を決めてもらうようにした。期日までに支払いに来ていただけたらいい。支払い病棟医事課 村吉英樹さん

・「内服薬の服用ミスを防ぐ」

朝・夕の内服薬を逆に服用させたことがあったため、朝昼夕の内服シートにマジックでそれぞれ赤黄青の色をつけた。

ゆうあいヴィレッジ一階療養棟 中島礼子さん・松本喜代子さん

・「ケアカンファレンス書類の準備負担の軽減」

必要書類五種類を手書きで書いていたのを、手間となっていた。Excelで書式を作成し、それに入れ込むようにした。三月月おきの書式作成時の手間も軽減された。

ゆうあいヴィレッジ支援相談室 野中繁昇さん

この他にも、たくさんさんの改善がありました。今後も、よりよいサービス・環境作り・コスト削減を行うために、小さなことからでも改善していきましょう。(ひらめいたら改善シートの提出忘れずに!!)

#### ■全表彰者リスト

##### 改善テーマ別表彰リスト(病院)

部門	改善テーマ	部署	氏名
患者サービス	病棟の指示用献立の作りかえ	栄養食事サービス部	牛島 久美子
	リラックス浴	看護部 3F病棟	栗山 聡子
	化学療法室のスリッパを気持ちよく履いていただくため	看護部 外科外来	小野 銘子
医療安全	配布物をより患者様に配布するため	看護部 内科外来	小池 知世
	右手(穿刺部位)の固定法の改善 - 穿刺しやすさ/位置での固定 -	放射線部	田中 慎介
コスト・効率	最終確認の徹底	医事管理部 医事課	岩石 怜子
	リカバリーMini(栄養補助食)を食事から間食として提供	給食委員会	代表 牛島 久美子
	体温計使用表の作成	看護部 4F病棟	藤松 世津子
コスト・効率	メッセージャー業務の取り込みで人的コスト削減	看護部 手術センター 内視鏡センター	野中 文子 吉村 千秋
	患者様への意識付け	事務管理部 医事課	村吉 英樹

##### 改善テーマ別表彰リスト(ゆうあいヴィレッジ)

部門	改善テーマ	部署	氏名
利用者サービス	吸引器カバー	2階療養棟	池田 真由美
医療安全	内服薬の服用ミスを防ぐ	1階療養棟	中島 礼子 松本 喜代子
コスト・効率	おもつコストの削減	2階療養棟	田島 俊子
	ケアカンファレンス書類の準備負担の軽減	支援相談室	野中 繁昇

## ブックエンド



### 【病院図書室】

・ジャン・ドミニック・ポビー著 河野真理子訳  
「潜水服は蝶の夢を見る」 講談社 一九九八

ある日突然自分の身体が動かなくなるとら...、自分を取りまく世界はどのように見えるのだろうか？

「ジャン・ドミニック・ポビー」は、雑誌「EPO」の編集長として活躍する人生から一転脳出血に襲われ身体を自由を一切奪われ、唯一動かせるのは左眼だけの状態に陥ります。医者や看護師が話しかけてくるのに自分の言葉が伝わらない、意識ははつきりしているのに言葉が発することができないロケット・イン・シンドローム(閉じ込め症候群)であることを告げられます。絶望的状况の中で、リハビリを行い瞬きで合図するという新しいコミュニケーション方法を取得し、一筋の光を見出すことができるようになりました。

たとえ身体は潜水服のように重く動かなくても、蝶のように想像と記憶の世界に羽ばたく事で新しい人生を彼は全うしました。

困難な状況に陥った時、初めて人は自分自身を見つめ直すのではないのでしょうか？ 絶望を乗り越え生きていること、素晴らしさを教えてもらった一冊でした。(理学療法士 伊東睦子)

・八代嘉美著 「70の細胞、世紀の発見が医療を変える」平凡社新書、二〇〇八  
・川淵幸一著 「医療再生は可能か」ちくま新書、二〇〇八  
・読売新聞医療情報部編 「数字でみるニッポンの医療」  
・鷺田清一、内田樹著 「大人のいない国、成熟社会の未熟なあなた」プレジデント社、二〇〇八

## 新着図書

## 編集後記



皆様、新年明けましておめでとうございませう。昨年、病院では二月に審査を終え、すばらしい成績で医療機能評価の更新ができました。ゆうあいヴィレッジでは四月に認知症対応デイサービスゆうあい谷所の開設、さらに九月にはケアコートゆうあい開設一〇周年記念行事等があり、祐愛会はさらに大きく発展した年となりました。

平成二二年度は「総合ルスカケアシステムの構築」をテーマに法人方針が示されました。法人各部署がチームで連携し、地域の人々に多方面からサポートできるように、スタッフ一同目標に向かって頑張っています。

さて、ゆうあい報おだびたるも今年で一三年目を迎えます。今年度は院内報二回/年、医療連携便り三回/年の発行を予定しております。法人スタッフ間、また法人と地域医療機関・施設を結ぶ広報誌として充実したものとなるよう広報委員一同頑張りたいと思います。寒い日々が続いていますが、体調管理には十分に気を付け、今年も法人および皆さんにとってすばらしい一年となるよう協力していきましょう。(宮崎公志)

